

信頼される女性リーダーの話し方

言の葉OFFICEかのん代表 川邊 暁美

我が国で最も高い「ガラスの天井」を破って高市早苗首相が誕生してから1カ月。支持率は歴代屈指だという。若年層の支持が高いと聞いて、女子大の授業で高市首相をどう思うか尋ねてみたところ、「自民党総裁選での各候補のスピーチを聞いて、この人になると確信していた」、「笑顔があって、親しみやすい」、「外交のときに堂々としていてカッコいい」、「国会答弁であいまいにぼかしたりせず、順序立ててきちんと話しているのがいい」など注目度が高く、中には「女性初がプレッシャーになって頑張りすぎないか心配」という声もあった。

◆サッチャー元首相、「常に低く、落ち着いた声」

高市首相が目標としている政治家はマーガレット・サッチャー元英首相だとか。その影響だろうか、話すときの声のトーンを意識的に低くしているようだ。

サッチャー氏は本来、高めの声だったが、常に低く、落ち着いた声を心掛け、自信と威厳に満ちた「鉄の女」を演出したと言われている。

高市首相も第219臨時国会における所信表明演説では、冒頭からの執拗なやじにもひるむことなく、終始力強く落ち着いた声で約28分間を話し切った。普通はやじに心乱されないよう、感情を抑えたり声を強めたりすると、肩に力が入って喉が締まるために声がかれてきてしまうものだ。相当に鍛えていると感じた。

聴覚障害者のための国際総合大会、デフリンピックの開会式では、満面の笑みをたたえ、明るめのトーンでゆっくり抑揚をつけて。北朝鮮による拉致問題についての記者会見では、低いトーンで一言一言、言葉を選ぶように丁寧に。経済財政諮問会議では、出席者全体に視線を配りながら真剣な眼差しでやや早口で。このように、目的と対象、場所によって声や話し方、視線・笑顔などを切り替えている。各国首脳との会談では相手とアイコンタクトをしっかりと取りながら話すことで「意志の強さ」を、「笑顔で余裕」を感じさせた。

◆女性活躍、高市流から学ぶ

男性が多数の組織で女性が活躍するために、高市流から学べることがたくさんある。まず、声のトーンと速さ。普段より低めのトーンでゆっくり話そう。胸に手を当て、そこに声を響かせるつもりで話す落ち着いたトーンになる。

高市首相の所信表明演説は1分間に273文字程度。呼吸を整えたり、キーワードに抑揚をつけたり、適切な間(ま)を取るなどの工夫ができる速さだ。言葉に思いが乗り、説得力が増す効果がある。また、一つの文を短く35~40文字程度にまとめ、文末を「です、ます」で言い切るように話すと、メッセージが明確になるばかりでなく、文末まで声を安定して保つことができ、信頼感につながる。

◆アイコンタクト・笑顔・姿勢で自分演出

アイコンタクトと笑顔、姿勢にも学びたい。信頼関係を結びたい相手と話すときは手元の資料ではなく、相手の目を見て話そう。笑顔も織り交ぜると自信も演出できる。

外国の首脳を迎えた際、背筋を伸ばし、やや大きめの歩幅で近づき、笑顔で握手をする首相の一連の立ち居振る舞いがとても堂々としていた。女性はチョコチョコ歩きがちだが、いつもより一足分、遠くへ足を出すつもりで歩くと良い。

そう、「いつもより一歩遠く、一歩高く」の意識を持って自分を演出することが信頼を勝ち取る。

(かわべ・あけみ)

◆監修◆ 内外情勢調査会

◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111 (代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003